

ちいさな額縁

切手



桂離宮



1966年12月5日発行
普通切手 桂離宮
桂離宮は17世紀に八条宮家（桂宮家）の別荘として造営されたもので、書院、茶屋、回遊式庭園から成る。近世の皇族の別荘の実態を伝えるものとして貴重である。
奥へ古書院、中書院、楽器の間、新御殿が切手に描かれている。



1974年12月10日発行 昭和50年用年賀切手
書院と異なり装飾性を強い新御殿の水仙型釘隠しを松琴亭の襖、壁の斬新なデザインの背景にして切手に描いている。



2015 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

摩耶夫人及び天人像



1981年1月20日発行
摩耶夫人像 普通切手
7世紀前半(飛鳥時代) 銅造・
鍍金 17cm の法隆寺宝物
東京国立博物館所蔵 重要文化財

ルンビニー苑にて摩耶夫人が無憂樹の花枝をた折ろうとするや釈迦が腋下から誕生したとの伝説中の一場面を造形化したもので、この種の立体的な群像としては希有の作例。面貌や骨太い体軀には飛鳥の古様がうかがえ、衣文の表現も独特のうねりと鋭さが認められる。なお本一具は、承暦2年(1078)に橘寺から法隆寺に移された小金銅仏群のひとつである可能性が高い。

東京国立博物館

2015 年

2 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

ハート型土偶



1981年7月10日発行
ハート形土偶 普通切手
縄文時代後期
(前2000～前1000)
群馬県東吾妻町

郷原出土
高さは約30.5cm 個人蔵
東京国立博物館委託

乳房が表現され、おなかの部分に妊娠線が表現されていることから、土偶に多く見られる妊娠した女性の土偶を表現している。



2015 年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

金銅華鬘 (金色堂堂内具)



1962年11月1日発行
中尊寺華鬘 普通切手
平安時代
国宝



他に 色違いで2種
第3次世界遺産シリーズ〈第6集〉
平泉の記念切手が発行されている。

金色堂にかけられていた銅製鍍金の華鬘。華鬘とは花輪のこと。インドでは生花を編んで輪にし、仏像の首や腕にかけて供養した。のちに、金属や皮、木などで花をかたどった華鬘がつくられ仏堂を飾るようになった。団扇形の内側には極楽に咲くといわれる宝相華を透かし彫りにし、中央に総角結びのかざり紐、左右は極楽に飛ぶ人面鳥・迦陵頻伽を彫り起こし、浄土世界を演出している。

(中尊寺金色院)

華鬘裏面



2015 年

4 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

色絵藤花文茶壺



1982年12月6日発行
色絵藤花文茶壺 普通切手
野々村仁清 作 国宝
江戸時代 17世紀
サイズ (cm)
高 28.8 口径 10.1
胴径 27.3 底径 10.5
MOA 美術館蔵

この色絵藤花文茶壺は、京風文化の象徴的作品ともいえる。温かみのある白釉地の上に、咲き盛る藤花が巧みな構図で描かれており、花穂と蔓は赤や紫・金・銀などで彩られ、緑の葉には一枚一枚葉脈を施している。総体が均等に薄く挽き上げられた端正な姿は、色絵の文様とほどよく調和しており、下部の土見も壺全体のバランスをよく保っている。底裏に「仁清」の小判形の大印が捺されている。丸亀藩・京極家伝来

MOA 美術館



野々村仁清 の作品は他に 2 作品が 3 種の切手になっている



色絵月梅図茶壺



1992 年
日中国交正常化 20 年記念
他に 1 種



色絵雉香炉



1969 年
第 1 次国宝シリーズ

2015 年

5 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

埴輪 うま



1966年7月1日 発行
はにわ馬 普通切手
埼玉県熊谷市上中条日向島出土
古墳時代・6世紀
重要文化財

古墳時代には馬、犬、猪、鹿、水鳥、鶏など様々な動物を象った埴輪がある。古墳にはこうした動物埴輪が組み合わされて配置され、狩猟や馬列などの場面が表現されている。



埴輪 犬
群馬県伊勢崎市境上武士
出土
古墳時代・6世紀



埴輪 鹿
茨城県つくば市下横場
字塚原出土
古墳時代・6世紀

2015 年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

仏頭



1976年6月6日発行
仏頭 普通切手
685年（白鳳時代）制作
国宝 銅造・鍍金
高さ 98.3cm 興福寺蔵



2002年6月21日発行
第2次世界遺産



興福寺東金堂は現在、薬師如来像を本尊とし日光・月光菩薩像、四天王像などが安置されているお堂です。「銅造仏頭」は、東金堂の文化財保存修理の最中に、現本尊の台座から発見されたものなのです。もともと飛鳥の山田寺にあった本尊の薬師如来像が移送されて、興福寺東金堂の本尊になりました。その後、火災に遭って頭部以外を失ったことにより、

新しい本尊の台座の中で、日の目をみることなく500年あまりの月日を過ごしてきました。500年という間、いつしか仏頭の存在は忘れられましたが、昭和12年、東金堂修理のためにお堂が解体されたときに、この「銅造仏頭」は姿をあらわし、“再発見”というかたちでニュースとなったのです。

（仏頭展）

2015年

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

浮世絵 山下白雨



1946年8月1日発行
普通切手 浮世絵 富士山
今では250種を超える
浮世絵がもちいられた切
手が発行されている。こ
の切手はその最初の切手、
葛飾北斎、富嶽三十六景
の山下白雨である。夏の
激しいにわか雨、白雨と
雪が残っている頂は、青
空を背景にして瑞雲の上
にそびえ、一方、裾野は
厚い雨雲に覆われて真っ暗となり、稲妻が走っている。気象現象
よって富士の大きさが表現されている。視点が富士の山頂と同じ
くらいの高さにとられ、まるで天空から見下ろしているかのような
眺めであるといわれる。

葛飾北斎の浮世絵、わが国だけで41種の切手になっている。
さらに、山下白雨はこの切手以外に国際文通週間の特殊切手など
5種の切手類になっている



1999年 国際文通週間



2011年 日本国際切手展



2015年

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

平等院鳳凰堂鳳凰



1971 年 3 月 29 日発行
平等院鳳凰堂金銅鳳凰
普通切手
11 世紀製作 国宝
像高〔北方像〕98.8cm
〔南方像〕95.0cm

頭部・胴部・翼・脚部の各々は別々に鑄造され、銅板製の風切羽と共に鋳で留められ組み立てられている。一部に鍍金が残されているが、現在は全体が銅錆で覆われている。円盤状の台座に立つ鳳凰像で、頭部には鶏冠・冠毛・肉垂が表現され、太い眉と鋭い嘴をもつ。首から胴体には魚鱗紋が表現され、頸部には宝珠の付いた首輪がはめられている。風切羽は多くが後補であるが、鋳彫により波並が表現されている。現在は屋根上に複製像を設置し、鳳凰像は鳳翔館に収蔵されている。



平等院は鳳凰以外に鐘楼など多くの文化財が 11 種の切手に描かれている。



2015 年

9 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

菩薩半跏像



1981年1月20日 発行
菩薩半跏像 普通切手
法隆寺宝物 銅造・鍍金
像高 38.8cm
7世紀（飛鳥または奈良時代）
重要文化財
東京国立博物館蔵

台座框の刻銘から「丙寅年に高屋大夫が亡き韓夫人のために発願造立した」ことがわかる。「丙寅年」は推古14年(606)と天智5年(666)の両説がある。また「韓夫人」銘やその瘦身の体軀、腰から垂れる帯飾りなど、総じて朝鮮三国時代の仏像との関連が濃い。



1989年6月1日発行

2015 年

10 月

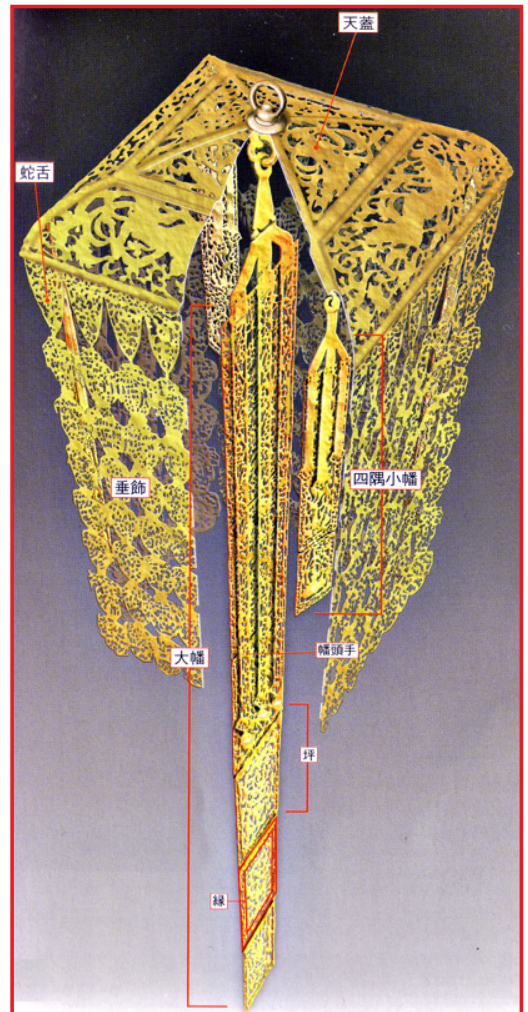
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

法隆寺金銅小幡



1980年11月25日 発行
 法隆寺金銅小幡・仏具 普通切手
 法隆寺宝物 銅板製透彫鍍金
 7世紀後半（飛鳥時代）
 国宝 東京国立博物館蔵

如来座像、菩薩立像、飛天、獅子などを切り透かした長方形の金銅板をちようつがいで連結したもの。



2015 年

11 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

法隆寺金堂壁画



1951年12月10日発行
法隆寺金堂壁画 侍者観音像
普通切手

法隆寺金堂壁画は、奈良県斑鳩町の法隆寺金堂の壁面に描かれていた7世紀末頃の仏教絵画である。確かな歴史的史料がないことから作者は不明とされている。インド・アジャンター石窟群の壁画、敦煌莫高窟の壁画などとともに、アジアの古代仏教絵画を代表する作品の1つであったが、1949年の火災で焼損した。1960年代に安田靫彦、前田青邨、橋本明治、吉岡堅二、平山郁夫らにより再現模写され、堂内におさまられている



1953年7月10日発行



1959年1月20日発行



1995年2月22日発行
世界遺産シリーズ

2015年

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		